

平成30年度第1回新子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

1 開催日時・場所

平成30年5月31日（木）13:00～15:00

於：岐阜県庁11階 教育委員会室

2 概要

平成30年度に取り組む「アクションプラン2018」の重点施策や、岐阜県の特別支援教育における現状と課題について確認し、意見を聴取した。

3 委員から出された主な意見

(1) 高等特別支援学校の全県展開について

- ・高等特別支援学校が専門学科のある高校内に入るのは、高等特別支援学校の専門教科で学習したい内容が高校の教科の内容と重なるうえに、高校の設備等が高等特別支援学校の専門教科で必要とする学習環境とも重なるため、両校の生徒が自然な形で交流できる魅力がある。
- ・専門学科の高校は、卒業後地域に就職する生徒がいる。高等特別支援学校の生徒も地域の企業への就労を目指していることから、同じ地域で生活する生徒が共に学ぶことは、卒業後も地域で関わりをもつことにつながっていくことが期待できる。

(2) 中重度の知的障がいのある生徒の作業学習について

- ・特別支援学校高等部における作業学習は就労に結びつくものであるため、作業学習の内容の見直しが必要である。
- ・以前行っていた職業教育プログラムのような形で、中重度の学習内容を研究開発していくとよいのではないか。

(3) 寄宿舎の在り方について

- ・遠方からの通学生がいなくなっており、家庭の状況を理由に受け入れている。
- ・家庭の状況により、寄宿舎での生活を必要としている児童生徒が入舎できるとよい。

(4) 通級について

- ・通級対象の児童生徒数が増加し、対応できる教員の数が追いつかない状況にある。
- ・教員の養成と専門性のある教員が地域をまたいで指導できる体制の整備が必要である。